職員用：穂波東校小中一貫教育だより　令和元年 11 月 29 日　第 8 号
文責：小中一貫校穂波東校　山本

今回は 11 月 7～8 日に「小中一貫教育全国サミット IN 堺」のレポートです。参加した６名の報告を基に小学部 薗田校長先生が作成されました。ぜひ、ご一読ください。

第１４回令和元年度小中一貫教育全国サミットＩＮ堺　参加報告

「縦につながる教育」の一層の充実に向けて～充実した豊かな人生を生き、社会の持続的な発展に貢献する子どもたちの育成～　をテーマに、大阪府堺市で行われた全国サミットに参加してきました。

本校の小中一貫教育のさらなる充実のための学びはもちろん、来年度の本市での開催に向けての運営面の情報収集のためでもありました。

２日間の研修から、主に、来年本校が担う１日目の授業公開を中心に、学んだことを報告します。

〈1 日目：授業公開（市内 3 校が公開：内「さつき野学園」を参観)〉

全学級公開され、全体会（研究の説明・講演）の前に教科ごとの協議会が設定されていました。

【外国語活動・外国語の授業から】

1 年生から定期的（2 週間に 1 時間）に外国語活動が位置付けられており、低学年の間に、多くの語彙を習得している様子が見られました。基礎期（1～4 年）活用期（5～7 年）実践期（8・9 年）それぞれで育成をめざす資質能力とそれに向かう活動が系統的に整理された「系統図」が作成されていました。

＊　系統図の作成や C-L タイム・小中での学習成果物の共有や授業での活用など、具体策を通して、連携を進めることが必要だと感じました。

＊　1･2 年生から取組むことができればと思いますが、1 単位時間を使った授業を今以上に設定するより、日常生活の中で歌やフォニックス、ゲーム・カード等で単語に出会わせていくことが現実的かつ有効だと思います。

【国語科交流授業から】

4 年生と 7 年生の読書活動「ビブリオトーク」の学習が、グループで行われていました。それぞれの学年に応じた目標設定がされ、上級生の活躍の場と下級生のモデルづくりとして有効に働いていて、施設一体型が生かされた取組でした。

＊　本校の C-L タイムでも、それぞれの目標設定と評価を明確にしておくことが必要だと思いました。また、英語科だけではなく、他教科でも可能性(効果的な場合)を探ることができそうです。

〈２日目　生徒指導分科会にて〉

生徒指導分科会では、本市の幸袋中学校が「飯塚市の未来を担い、世界へはばたく子ども育成」という主題において実践発表を行いました。質疑の中では、本市が教育委員会の指導の下、各中学校区が足並みを揃えて様々な取組を展開していることに関心が集まり、改めて本市の教育内容の質の高さを実感することができました。

【今後の取組･来年の発表会に向けて】

＊　全国各地からたくさんの方々が、小中一貫教育について、また飯塚市の教育･穂波東の取組について、期待をもって学びに来られます。本校の取組をしっかり発信できる会、来られた方が学びにつながるよう日々の実践と共に、粛々と準備を進めていかなければと思いました。

＊　取組の足跡が見える掲示物等が整っていました。一気にではなく、今年度から記録(写真や子どもの作品等)を集めておき、計画的な環境整備が必要だと思います。

＊　300 名を超える参観者の対応(駐車場･駅からの案内、受付、接待、校舎内の案内等)について計画的な準備が必要だと分かりました。

＊　堺市及び大泉学園の授業スタンダードは、思考ツールも含めよく整理されており、本校の授業スタンダードや深い学びにつながる授業づくりの参考になるものだと思います。